



第70巻 第4号

史学・地理学・考古学

論 説

- 清朝辺民制度の成立……………松 浦 茂 (1)
シュトラスブルク宗教改革の展開……………渡 邊 伸 (39)
——仮信条協定期を中心に——
フランスにおける1947年
11—12月ストライキの挫折……………杉 本 淑 彦 (73)

研究ノート

- 中世菅浦における村落領域構成——景観復元を通して—— ……太 田 浩 司 (114)

資料紹介

- 滋賀県雪野寺跡の測量調査……………岡村秀典・菱田哲郎 (150)

書 評

- 小林健太郎著『戦国城下町の研究』……………小 島 道 裕 (156)
青山吉信・木村尚三郎・平城照介編『西欧前近代
の意識と行動』……………富 澤 靈 岸 (165)

紹 介

- 上島有編著『東寺文書聚英』(伊藤俊一)
川北稔編『「非労働時間」の生活史——英国風ライフ
・スタイルの誕生——』(佐久間亮)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

昭和六年五月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、昭和六年四月二日から二四日まで第一〇二回総会（第一三期の五回目の総会）を開催した。今回の「日本学術会議だより」では、今総会で採択された勸告、要望等を中心として、同総会の議事内容をお知らせする。

◇総会報告

総会ではその第一日目に会長からの経過報告、各委員会報告に続き、規則などの改正、勸告・要望等の六つの提案がなされ、同日の午前中に提案一件が、午後各部会で審議した上、第二日目の午前中に三件が、第三日目の午前中に一件の採決が行なわれた。なお、総会前日の二一日午前に連合部会が開催され、これらの案件の予備的な説明、質疑が行われ、第二日目の午後には「二一世紀へ向けてのエネルギー問題」についての自由討議が、第三日目の午後にはそれぞれの常置委員会、特別委員会が開催された。

また総会の冒頭に、先に逝去された北川晴雄会員（第七副部長）を追悼して黙禱を捧げた後、新たに任命された鶴藤丞会員が紹介された。

第一日目の午前中にまず現代の「高度技術化社会」における人間の役割と対応及び「こころ」の健康の回復・増進の問題について総合的に検討するために「マン・システム・インターフェース（人間と高度技術化社会）特別委員会」を設置することが決定された。今期は余すところ約一年間であり、この特別委員会は各部から委員を選出して直ちに活動を開始した。第二日目の午前には、まず、第一常置委員会等で検討されてきた「日本学術会議の運営の細則に関する内規」の一部改正が採択された。改正の第一は、従来の地方区会議の名称を地区会議とし、広報委員会がこれを組織することとしたことであり、第二は日本学術会議が勸告等を出すに当たって整合性を考慮すべき過去に行った勸告等を三期前から後のものに限ることとしたことである。次に第六常置委員会が検討してきた日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規の改正が採択された。これは、今まで

際学術交流事業については、「団体加入」、「代表派遣」、「国際会議主催・後援」、及び「二国間学術交流」の基準があったが、これらを一つの内規にまとめたものであり、

本会議の行う国際学術交流事業の見直しを今後行い、必要な自己改革を図る原則を定め、予算、組織等の基盤の拡充・強化に努めて、国際社会への学術的貢献を一層拡大してゆこうとする方針を確立したものである。さらに本総会では、「地域型研究機関（仮称）の設立について」（勸告）と、「大学等における学術予算の増額について」（要望）の提案が、いずれも活発な質疑応答の後、賛成多数で採択され、直ちに内閣総理大臣始め関係諸機関等に送付された。

（中略）

◇地域型研究機関の設立について（勸告）
我が国の基礎的学術研究の水準を一層高めるためには、各地域の研究を高度化し、地域の特徴に基づく活発な国際対応を可能にする条件を整備しなければならない。

そのためには、地域の大学や研究機関を活性化するとともに、地域の研究者並びに社会の要請に即した課題について総合的なプロジェクトを実施し得る基盤を整備する

必要がある。

これを達成するためには、要所に地域型研究機関（「地域センター」という。）を置く必要がある。この地域センターは、地域の特性を活かした研究や、その地域に深く関連する研究の拠点としての機能とともに、既存の研究機関及び研究領域の枠を越えて研究者の交流を促進する機能をもったものである。従って地域センターには、相互に利用し得る研究機器や研究資料を備える必要がある。

地域センターの規模・内容は、各地域の研究者の自主的・具体的要請によって異なるが、次のいずれかまたはこれ等を組み合わせた形態をもつ。

A 地域研究 (area studies) を主とするもの

B 大型共同利用機器を備えるもの

C 中小型の研究機器及びその他の研究設備を備えるもの

なお、設置形態は、国公立大学等の研究者が、平等に利用し得る国立の共同利用機関とし、官公庁・産業界にも自由に開かれたものを目指す。

会告

去る五月二十三日に開催された昭和六十二年度春季定例理事会・評議員会において、次の案件が承認可決されました。

一、昭和六十一年度決算報告及び昭和六十二年度予算案
一、役員交替

(1) 理事長越智武臣、理事岡部健彦、監事岩見宏、評議員岡崎敬、柴田三千雄、隅田哲司、高尾一彦氏の退任。なお大月明氏は死去されました。

(2) 理事長に藤縄謙三、理事に浅香正・桑山正進（共に評議員より）、監事に勝藤猛（評議員より）、評議員に伊藤貞夫・小谷仲男・夫馬進・堀井敏夫・向山宏・横山浩一氏を選任。

(3) 常務理事に大山喬平・河内良弘氏を選任。なお旧常務理事鎌田元一氏は評議員に復帰。

編集後記

残暑の候、会員各位におかれましては如何がお過ごしでしょうか。第七〇巻第四号をお届け致します。二箇月遅れの刊行となつてしまいましたが、論説三、研究ノート一、資料紹介一、書評二、紹介二と内容は多彩であります。充分御検討下さい。

編集委員の異動をお知らせします。此度、黒田明伸・利光有紀・元木泰雄の三氏が退任され、代わって松田隆典・美川圭両氏と小生が委員を務めることとなりました。

なお、このたび昭和六十二年科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付が内定されました。（雅）

一九八七年六月二五日印刷 定価一〇〇〇円
一九八七年七月一日発行 送料五〇円

史 林 第七〇巻第四号（通巻第三四四号）

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史 学 研 究 会

理事長 藤 縄 謙 三
振替京都七一一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内中町五〇

会
告

史学研究大会・総会のお知らせ

左記のごとく、本年度の史学研究大会および総会を開催いたしますので、多数御出席下さい。

日 時 昭和六十二年十一月二日（月）午後一時

場 所 京都大学薬友会館

（市バス近衛通下車東入）

公開講演

平城遷都と慶雲三年格

鎌田元一

歴史と世代——イギリス・ルネサンス考——

越智武臣

史学研究会

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXX No. 4 July 1987

CONTENTS

Articles :

- The Establishment of the Frontier People 辺民
System in the Qing 清 DynastyS. Matsuura (1)
- Straßburger Reformation 1530-1549.....S. Watanabe (39)
- L'échec des grèves de novembre-décembre 1947.....Y. Sugimoto (73)

Note :

- The Composition of Village Lands in *Suganoura*
菅浦 during the Middle AgesH. Ohta (114)

Material :

- A Survey of Remains of the *Yukino-dera* 雪野寺
Temple in *Siga* 滋賀 PrefectureH. Okamura, T. Hishida (150)

Book Reviews :

- K. Kobayashi, *Castle Towns in the Warrior Period*.....M. Kojima (156)
- Y. Aoyama, S. Kimura, S. Hiraki (ed.) *The Consciousness
and Behavior in Pre-Modern Western Europe*R. Tomizawa (165)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-9369